

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見に対する回答

ご意見・ご提言の ページ・項目	ご意見等	回 答
<p>(全体に関する事項) 本総合戦略、他の諸計画の関連について</p>	<p>市では、石巻市総合計画をはじめとして、震災復興を最優先課題として捉えた震災復興基本計画や実施計画、中心市街地活性化基本計画、地域再生計画、まちなか再生計画など諸計画を策定また実施しているものと認識している。本計画においても、復興まちづくりの推進を基本的な考え方としており上述諸計画との密接な関連が視える。</p> <p>一方、本総合計画を含む諸計画は個々に記載されており、市全体の計画の中で、各々が、どのような位置づけにあり、どのように関連付けられているのか、一般市民として全体像が分かりづらい。係る認識に鑑み、要すれば市諸計画を俯瞰できるような資料、鳥瞰図などについて市報やHP等で発信、提供願いたい。</p>	<p>本総合戦略につきましては、本市の最上位計画である石巻市総合計画や震災復興基本計画との整合性を図ることとしております。</p> <p>ご指摘のありました俯瞰できるような資料、鳥瞰図等につきましては、今後、検討させていただきます。</p>
<p>P 45 将来展望 交流人口について</p>	<p>「交流人口は2015年の1.5倍になる」とあるが、何を1.5倍にするのか、不明な状況にある。2015年の「交流人口」の半分(110万人)は上品の郷が占める中、同じ文章の中で「観光客」と同義のように記載されている。この総合戦略で指標とする「交流人口」を明確に定義しておく必要があるのでは。</p> <p>「復興まちづくりの進展により」交流人口が1.5倍となることを目指しているが、石巻市における復興予算の金額を考慮しただけでも、2015年現在は、「復興まちづくり事業により」交流人口が増えている(=復興事業による労働者や、応援職員、復興支援関係者などの石巻訪問が増加)と推察するのが妥当ではないか。</p> <p>2060年の目標に対して「PDCAサイクルを適切に実施」するのであるから、「復興まちづくり事業」の終了により、交流人口が一気に減少することを考慮して目標値を再設定すべきではないか。</p> <p>他自治体からの応援職員は、業務を通じて石巻の良い点も悪い点にも触れている上に、(被災地以外では有り得ない)最も身近な移住者であると考えられる。応援職員を対象に石巻市における任期を延長したい、もしくは、任期</p>	<p>将来展望につきましては、2060年(45年後)という未来の石巻をより分かりやすくイメージしていただくために記載したものです。一方で、総合戦略においては、2020年の数値目標を具体的に設定し、今後5年間で行うべき、具体的な施策を記載しております。</p> <p>ご意見にもあるとおり、復興事業完了後に交流人口が一気に減少することも懸念されますが、総合戦略に基づき、交流人口の維持、増加を図るとともに、それらの状況を把握・分析しながら、施策や各事業の改善を行っていきたいと考えております。</p> <p>なお、「交流人口」については、基本的に観光入込(客)数より広義に解釈され、本計画では、本市を訪れる方全般を指すこととなります。</p> <p>また、住民代表、NPO、関係団体等で構成する「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を設置しており</p>

	<p>が終わっても移住したい、と思う点があるか、あるならどこか、という調査だけでもしてみた上で、交流人口の減少を踏まえた形で将来展望を見直し続けた方がよいのではないか。</p>	<p>ますので、庁内外を問わず、広く関係者の意見を反映してまいりたいと考えております。</p>
<p>P 45 将来展望 人材育成について</p>	<p>危機感を持って取り組むべき総合戦略なのに個別事業には既存事業が並んでおり、石巻市の復興は石巻市職員にとっての復興でもあるし、石巻市の地方創生は石巻市職員にとっての地方創生でもあるはずなのに、「将来展望」と個別事業の内容や目標とのつながりが見えづらい。</p> <p>人材育成により「好循環」を生み出すには時間も労力もかかると思うが、「どこかの誰かが実現して欲しい」「委託を出すからそこがやる」ではなく、市職員が役所にこもるのではなく出向等で現場に出て、現場の課題に直面しながら施策に反映してゆくような仕組みを創っていただきたい。(PDCA サイクルの“Check”において、資金の用途だけでなく、事業の成果“Output”だけでなく“Outcome”も厳しく見るには、職員が積極的に地域と関わる仕組みでは無理ではないか。)</p>	<p>ご意見のとおり、職員が現場の課題を認識しながら施策に反映していくことが重要であることから、自ら積極的に課題解決を進めるような人材の育成を図っていきたくて考えております。</p>
<p>P 47 基本的な考え方</p>	<p>何故、市にとっていや市民にとって大事な政策が復興政策部復興政策課なのか疑問になる。復興推進だけならこの議題を変えたら良いのではないか。</p> <p>過去にも街づくりや総合計画など数多い提言があったかと思いますが、何ら市政に反映されず、うやむやになった経過があり、本当に市にそれだけの覚悟と度胸があるかが疑問である。</p> <p>真剣に街づくりを策定するなら、市民と一体になった政策でないと絵を描いただけになるので市民とのコンセンサスと情報公開が必要です。ただ、復興途中の市の在り方についても市民病院始めとして、市民とのコンセンサスがなく批判になっている事業が多いので、市民の協力得ることは大変だと思うのも事実である。</p> <p>特に、今や、家において市議会などを聴衆できる時代であり、その中で関係部長さんの回答がその場限りで無責任・適当なことが間々とある。</p> <p>当然な五項目ですが、ゼロからの出発というのであれば、何と言っても石</p>	<p>復興政策課では、復旧、復興事業における課題調整はもちろんのこと、市政全般における課題調整を業務内容としております。</p> <p>ご意見のとおり、市民の皆様が自慢できるような街を作っていくことが本市の魅力の向上につながっていくと考えられますので、御提案のあった取り組みについては、貴重なご意見として検討させていただくとともに、「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」等、多くの市民の方々のご意見を伺ってまいりたいと考えております。</p>

巻の歴史を見ないといけないと思います。

ここでは詳しく書かないですが、昔の石巻は盛んな時もあったと、江戸時代・水産富の時代など、どれも海と川と山のこの石巻の自然に恵まれた地域である。震災後、海は悪者のように見られているがこの自然の恵みこそ石巻の最大の資産である事を市民アピールすべきである。

そこで魅力ある市でなければ市民の活性もないし、人も他から集まっても来ない。魅力ある街とは、個々の価値観の問題もあるが、この町が自慢できることだと思う。市民一人一人が自慢できることと言われてハッキリ言える方はいるだろうか。

確かに漫画館やサンファンと言うかもしれない、それもあろうけど、広い意味で自慢出るのは・・・と考えてしまう。漫画館やサンファンでは人を呼べないと多くの市民は思っています。

産業的にも石巻のお土産と思ったら、「笹かま」だけって思ってしまう。

これが結果第二の都市ですか。

食べ物だって、水産では金華鯖とかブランド化してますが、じゃ市内でそれを食べられる店はあるのかと言ったら考えてしまう。

もっともっとありますが、これが石巻の現実なのです。

先日の市議会で、魅力ある観光資源があると、ある部長さんがお話してますが、本当にその認識でしょうか、具体的に観光客を呼べる観光施設はどこがあるのでしょうか。

そして、水産小売施設を中央地区に作ると事に関しても、推定訪問数に関しても、現実と大変離れている数値だと思います。建設ありきの答弁で、本当に街づくりのための政策なのか疑問を持たざるをえません。

それより、南浜地区に復興公園と隣り合わせの事業でヨットハーバーなる事業もありましたが、海洋レジャーの基点として施設なども充実した本格的なバース方式のハーバーにするべきである。その都度、高架するのでは、利便性に不向きで利用者が利用しやすい本格的な施設で、それが一部観光施設にもなる。

また、宮城県水産試験場と共同で、水族館のような、この南三陸地域の海

	<p>の生物の展示など試験場と共同で進めたら、仙台の水族館と違った展示ができるのではないのでしょうか。また、体験型として海釣り堀など、海を利用した観光施設がアピールしやすいと思います。</p>	
<p>P54 基本目標 3 絆と協働の共鳴社会をつくるについて</p>	<p>「絆と協働の共鳴社会づくり」という基本目標に対し、数値目標が包括ケアの取り組みエリア数、東京への転出数、東京圏からの転入数、の3つしかないのは、問題ではないか。</p> <p>人口の社会増減に関して、ここに記載することにした事情は理解できるが、包括ケアのエリア数と「東京からの人口増減」だけで「協働社会」が実現できるわけではないので、他の視点も取り上げてほしい。</p> <p>既出の通り、「復興まちづくり」により石巻への転入者数が増加している傾向があると考えられるので、今後、転入者数が減少する傾向すらあると考えられる。「増加させたい」だけでなく、「震災後の増加分についてどれだけ減少幅を減らすか」という視点の施策が必要だと考えられるが、若者への意見聞き取り等の取り組みが折角始まっているのだから、石巻の魅力を高めるための聞き取り等を深めるべきでは無いか。</p>	<p>ご意見のとおり、「震災後の増加分についてどれだけ減少幅を減らすか」という視点での施策も必要であると考えており、「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」等において、様々な方々から引き続きご意見を伺いながら、石巻の魅力を高めるための施策に取り組んで参りたいと考えております。</p>
<p>P54 基本目標 4 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるについて</p>	<p>目標を高く掲げることに對し異論があるわけではないが、現状の出生率1.34を1.60に高めるためには、根本的な意識転換とそれに伴う施策が必要と考えられる。</p> <p>婚姻数は世代人口の減少と共に669から660件に減ったとしても、出生率は1.60に上がる、という目標を掲げるならば、それを裏付ける個別の事業が必要と思われるが、現状ではその関連性が見えないため、今後、出生率を上げる要素を見出す取組を継続してもらいたい。</p>	<p>少子化対策については、あらゆる施策を動員して、継続的に実施していくことが必要であることから、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるため、各ステージにおいて切れ目のない支援を実施していくとともに、「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」における評価、検証を踏まえて取組の改善を行って、より効果的なものとしていきたいと考えております。</p>
<p>P61 観光産業の振興 KPIについて</p>	<p>既出のとおり、観光客入込数3,000,000人/年の「観光客」の再定義が必要と考えられる。</p> <p>それぞれの分野の来場者数や宿泊者数が並んでいるが、どのように合計したら3,000,000人になるのか、わからなかった。2015年実績の220万人に対して新規の「観光交流施設の来場者数1,000,000人/年」を足すだけで3,200,000人になるはずが、合計目標がそれより低いということは、どこか</p>	<p>観光客入込数については、個々の施設の集客力の向上だけではなく、観光ルートの再設定等により相乗効果を図り、全体の入込数増加を図っていききたいと考えております。</p> <p>また、KPIの設定については、「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」における進捗管理と評価検証を踏まえて、必要に応じて改訂してまいります。</p>

	<p>の施設が、現状よりも下回ってもよいことになっていると考えられるが、その内訳が不明であるため、整合性のとれる数値目標を示してほしい。</p>	
<p>P65 地方移住・地元定着の推進 教育旅行について</p>	<p>「教育旅行受け入れ件数（H27年度～H31年度）13件」が目標にかかげられているが、当会の小・中・高校生の関わる修学旅行、視察等が H27 年度だけで 25 件（そのうち、150 名以上の団体が 4 件）、H23 年度からでは 73 件（そのうち、150 名以上の団体が 6 件）の受入実績がある。</p> <p>他にも教育旅行視察受け入れを行っている民間団体は数多くあることから、まずは、現状把握から始めるべきではないか。</p> <p>復興基本計画実施計画には「石巻的修学旅行のススメ事業」の数値目標が掲げられているが、年会の誘致回数は「2 回」にとどまっており、本総合戦略の「教育旅行」との整合性が不明のため、整理していただきたい。</p>	<p>宮城県観光統計から教育旅行宿泊生徒数・学校数を把握しておりますが、現状把握について、民間団体と連携を図っていきたいと考えております。</p> <p>また、教育旅行の誘致に向けた取り組みについては、奥松島・金華山石巻圏周遊観光協議会における取組と石巻市で行う「石巻的修学旅行のススメ事業」を考えております。修学旅行のススメ事業は、教育旅行の一部ととらえておりますが、誘致状況を踏まえ、必要に応じて数値の見直しを図りたいと考えております。</p>